



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和5年5月23日) 第5号

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

第1回全校集会

5月9日(火)、今年度初めての全校集会を以下の内容で行いました。

1. 校歌斉唱
2. 校長より(要旨)

「令和5年度の八鹿青溪中学校がスタートしました。私は今年度からこの学校にきていますが、以前からの噂どおり、素晴らしい生徒がたくさんいる学校であり、たいへん嬉しく思っています。この調子で令和5年度が進んでいくことができれば良いと思っていますので、みんなで力を合わせてこれまでどおり頑張っていきましょう。」

さて、皆さんは学校生活が楽しいですか?というか、そもそも「学校における楽しみ」とは何ですか?私は、今までできなかったことができるようになること、つまり自分が成長したと感じることに学校の楽しみがあると思っています。例えば、難しかった数学の問題が解けるようになったとか、新しい漢字が書けるようになったとかです。もうひとつは、友だちや先生との出会いも学校の楽しさのひとつです。友だちや先生といろいろな話をするのは自分を高めていきます。このように考えてみると、学校における楽しみとプロ野球観戦や美術館・博物館に出かける楽しみには違いがあることが分かりますね。要するに、学校の楽しみはお金を払って得るものではなく、努力や工夫、そして、時には我慢の末に得られるものであるということです。どうか八鹿青溪中学校での生活を楽しいものにするために、自分にできることをしっかりとやってほしいものです。」



3. 生徒会各専門委員会より連絡

・貫徹タイム(清掃)の取り組み方について 他

八鹿青溪校区小中一貫教育

八鹿青溪中学校区では、小学校と中学校が共通の学校目標(「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」)を掲げて教育活動を展開する「八鹿青溪校区小中一貫教育」を行っており、5月10日(水)、令和5年度の総会を八鹿青溪中学校にて開催しました。当日は、校区内の小・中学校教員のほぼ全員が一堂に集まり今年度の取組について共通理解を深めるとともに、まずは小中学校の教員どうしがしっかりと手を携えて児童生徒の教育にあたるのが大切であることを確認しました。



<主な話し合いの柱>

- ・「いきいきと表現する児童生徒の育成」について意見交換
- ・「“そうあんくんの日”の取組の推進」について意見交換 その他 情報交換等

令和5年度生徒総会

5月12日(金)、令和5年度生徒総会が開催されました。まず私からは、「皆さんも18歳になると選挙権を得ます。しかしながら投票に行かない大人も少なくありません。生徒会活動と政治とは必ずしもイコールではありませんが、似ている面も多くあります。生徒会活動を通して政治に参加するとはどういうことかを学び、将来的には選挙を棄権しない大人になってほしいです。」と全校生徒へメッセージを送りました。いっぽう、さて、今年度の生徒会スローガンは「Let's try!～『やってみる』を始めよう～」に決まりました。新型コロナウイルス感染症に伴う制限が徐々に緩和される中で、今がいろいろなことを“やる”ではなく、“やってみる”ためのチャンスと捉えてこのスローガンに決定したという説明を生徒会役員がしてくれました。なお、このスローガンは、八鹿青溪中学校の校門横に即日掲示しましたのでまたご覧ください。

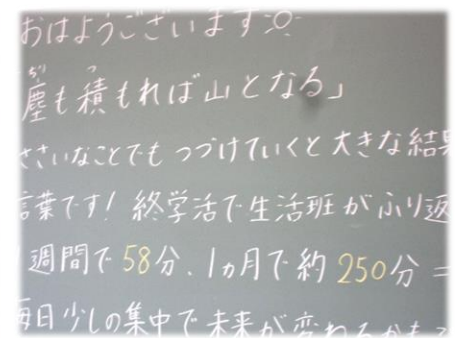
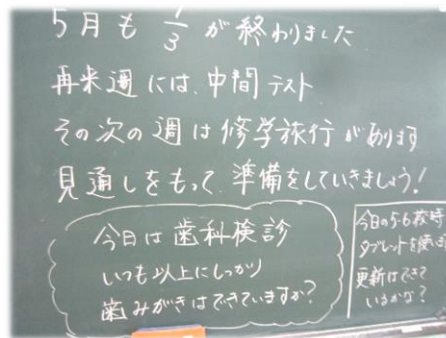
生徒総会終了後は、各学級の代表生徒が前に出て、それぞれの学級紹介をしてくれました。自分たちの学級を楽しそうに、かつ、誇らしげに紹介する生徒の姿が印象的でしたが、どうか誰ひとり取りこぼさない優しい学級をめざして1年間を過ごしてほしいと願っています。



教師からのメッセージ

八鹿青溪中学校の教師は、毎朝、学年フロアや教室の黒板を使って、文字によるいろいろなメッセージを生徒たちに投げかけてくれています。生徒たちは、黒板に書かれた文章をどのように受け止めて、どのように学校生活にいかしてくれているでしょうか。きっと、ひとりひとりの教師の熱い願い

を生徒ひとりひとりが“心”で受け止めてくれているものと期待しています。八鹿青溪中学校の教師は生徒の成長を切に願って、今日も指導や支援に全力であたっています。



あたりまえのことかもしれませんが・・・

ある日、授業の様子を見ようと校舎内を歩いていたところ、パソコン室の前で綺麗に並んでいる上履きの列に遭遇し、思わず写真に収めました。これはパソコン室で技術の授業を受けている生徒たちの脱いだ上履きなのですが、あまりにも美しく並んでいるので感動してしまいました。靴を脱いだらきちんと揃えるということはあたりまえのことかもしれませんが、この“あたりまえ”というのが実は簡単なことではありません。面倒くさいので大人でもついつい乱雑に脱ぎっぱなしにしていまいがちですが、八鹿青溪中学校の生徒はそれをしません。こんなところにも池田草庵先生の教え「筆硯整齊(ひつけんせいせい)」を励行している生徒の姿が現れているのかもしれない。

